

平成20年度

デルフザイル市友好親善訪問団派遣事業

デルフザイル市 友好親善訪問団報告書



周南市



あいさつ

周南市では、姉妹都市交流事業の一環として、友好親善と相互理解を深めるとともに、国際感覚の豊かな青少年を育成することを目的に、中高生を姉妹都市へ派遣する事業を行っており、平成二十年度は、オランダのデルフザイル市に中学生九人、高校生三人、同行職員一人の計十三人を派遣しました。

デルフザイル市への訪問は、平成二年の姉妹都市提携以来、今回で九回目となりましたが、各団員たちは、多少、ことばの壁は実感したようですが、訪問先でホームステイをしながら、デルフザイル市の

人々とさまざまな活動を通して、オランダの伝統や文化を吸収するとともに、日本の伝統文化を伝えるなどし、積極的な交流に努めてもらいました。この報告書は、こうした団員一人ひとりのかけがえのない貴重な体験や感動をありのままに綴ったものです。

このたび団員として参加された皆さんには、今回の体験で得たことを学校や地域の多くの人たちに紹介していただくとともに、今後の本市の国際交流活動にも積極的に参加、協力され、将来、国際化社会の中で活躍される人になっていただきますよう期待いたしております。

終わりに、本事業の実施にあたり、デルフザイル市役所や実際に日々の活動プログラムを計画されたコニンギン・ウィルヘルミナ音楽協会の方々、さらには、団員を暖かいおもてなしで受け入れていただきましたホストファミリーの方々に心から感謝申し上げます。

周南市長 島津 幸男



姉妹都市提携までの あゆみ

旧新南陽市では、国際化時代がさげばれる中、姉妹都市の必要性を認識し、候補地を探していたところ、地元企業である株式会社東ソーにより、オランダのデルフザイル市が紹介された。両市は国際貿易に基本を置く港湾化学工業都市であるという類似した都市形態を背景に、お互いの文化、生活様式の相違性の理解を深めることが大切であるとし、平成2年5月22日に姉妹都市提携調印団をデルフザイル市に派遣して、調印を行った。周南市になった後も引き続き交流を続けている。





Delfzijl

Netherlands Groningen (オランダ フローニンゲン)

デルフザイル市について。

市の概要

デルフザイル市は、オランダのフローニンゲン州北部に位置する港湾都市である。岩塩と天然ガスの発見により化学工業を主体とする工業の街として発展した。また、自然の良港を有し、周南市と都市形態が似ている。住宅街はレンガ造りの瀟洒な家並みが並び、自然を多く残した美しい街である。(デルフザイルという名は、デルフ川にあった水門「ザイル」に由来している。)

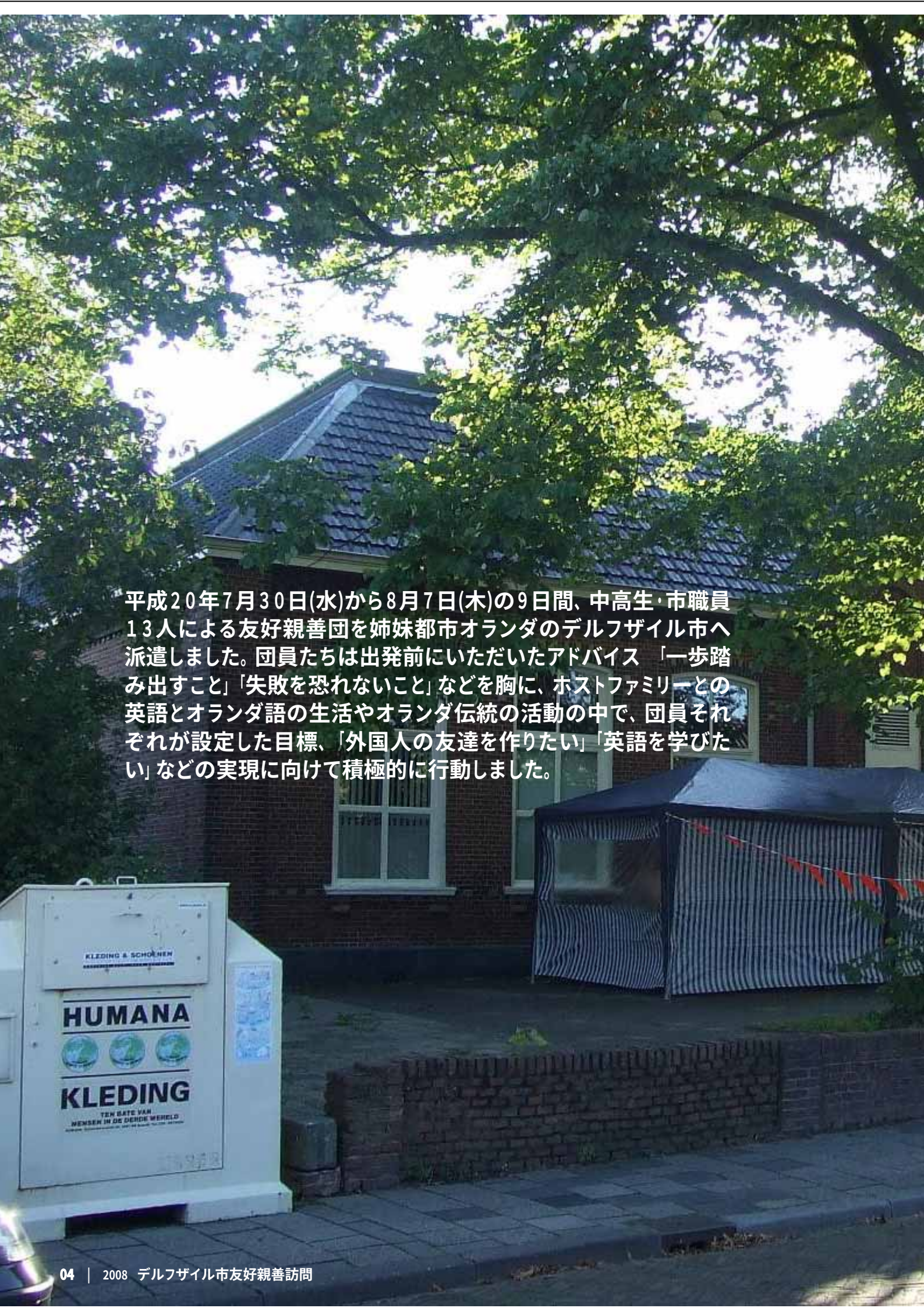
- 人口／約3万3000人
- 面積／約55km²
- 言語／オランダ語、英語
- 通貨／ユーロ(EURO)
- 交通／アムステルダムから車で約3時間





人生が変わった9日間

姉妹都市デルフザイル市での国際交流



平成20年7月30日(水)から8月7日(木)の9日間、中高生・市職員13人による友好親善団を姉妹都市オランダのデルフザイル市へ派遣しました。団員たちは出発前にいただいたアドバイス「一歩踏み出すこと」「失敗を恐れないこと」などを胸に、ホストファミリーとの英語とオランダ語の生活やオランダ伝統の活動の中で、団員それぞれが設定した目標、「外国人の友達を作りたい」「英語を学びたい」などの実現に向けて積極的に行動しました。

概略日程

7/30(水)	● 14:25 ● 16:24 ● 17:00	周南市 大阪市	徳山駅発(新幹線ひかり 464 号) 新大阪駅到着 ホテル到着、宿泊
7/31(木)	● 7:50 ● 8:18 ● 9:23 ● 11:15	関西空港	ホテル出発 新大阪駅発(はるか 9 号)、関西空港へ 関西空港到着後、出国手続 関西空港出発(KL868) (時差 - 7 時間)
	● 16:20 ● 17:10	アムステルダム	スキポール空港到着、入国手続 ホテル到着、宿泊
8/1(金)	● 9:00 ● 14:00 ● 17:45		アムステルダム市内視察(国立博物館、運河等) アムステルダム出発、デルフザイル市へ(大堤防経由) デルフザイル市到着、歓迎会、ホストファミリー面会 ホームステイ
8/2(土)	● 午前 ● 14:00 ● 19:20	デルフザイル	ホストファミリープログラム 田舎ゴルフ、弓体験、いかだ作りなど 交流会(オランダ伝統ゲーム、パンケーキ作り等) ホームステイ
8/3(日)	● 午前 ● 12:45		ホストファミリープログラム ワッデン海への船旅、ニシン食べ体験 ホームステイ
8/4(月)	● 9:00 ● 19:00		企業視察、市役所表敬訪問、消防署等 お別れ会&バーベキュー ホームステイ
8/5(火)	● 9:00 ● 12:00 ● 17:00	ユトレヒト	デルフザイル市出発 ユトレヒト到着、市内視察(オルゴール博物館、 ディック・ブルーナー・ハウス、ドム塔等)、買物 ホテル到着、宿泊
8/6(水)	● 10:50 ● 11:30 ● 15:20	アムステルダム	ユトレヒト市内で買物、ユトレヒト出発 空港へ スキポール空港到着、出国手続 スキポール空港出発(KL867) 機内泊
8/7(木)	● 9:30 ● 11:16 ● 12:24 ● 14:16	関西空港 大阪市 周南市	関西国際空港到着、入国手続 関西国際空港出発(はるか 18 号) 新大阪駅出発(新幹線ひかり 465 号) 徳山駅着



平成20年度
Delfzijl
友好親善
訪問団

デルフザイル市 友好親善訪問団の名簿

帰国報告会での笑顔

- | | | | |
|----|--|----|--|
| 15 | 周南市立富田中学校 1年
深来 健一郎 Kenichiro Fukaki | 27 | 周南市立太華中学校 1年
青木 亮磨 Ryoma Aoki |
| 17 | 周南市立岐陽中学校 2年
稗田 麻衣 Mai Hieda | 29 | 山口大学教育学部附属光中学校 2年
守岡友加子 Yukako Morioka |
| 19 | 周南市立岐陽中学校 2年
福谷 洋子 Yoko Fukuya | 31 | 周南市立秋月中学校 2年
国次 一真 Kazuma Kunitsugu |
| 21 | 周南市立菊川中学校 2年
西村 瞳 Hitomi Nishimura | 33 | 山口県立光高等学校 2年
片山早紀子 Sakiko Katayama |
| 23 | 周南市立熊毛中学校 1年
藤田 汐理 Shiori Fujita | 35 | 山口県立鹿野高等学校 3年
栢原 瞳 Hitomi Kayahara |
| 25 | 周南市立周陽中学校 2年
松井 美咲 Misaki Funai | 37 | 山口県桜ヶ丘高等学校 3年
松本 昌奈 Akina Matsumoto |
| | | 39 | 周南市教育委員会 生涯学習課
花野 勝則 Masanori Hanano |



思い出のスナップ写真！

ここでは、オランダで過ごした8月1日から8月5日までの5日間をご紹介します。 Text 花野 勝則 (団長)

8月1日

アムステルダム観光

●アムステルダム国立博物館を見学し、レンブラント、フェルメールの絵に感動した団員たち。このごろになるとほとんどの団員がオランダに来たことを実感した様子で素敵な街並みに「絶対オランダに住みたい!!」との声が聞こえてきました。運河クルーズの時には、オランダ人との会話も増えてきました。「写真撮ってください」。国際交流のスタートです。アムステルダムでは、他にアンネの家を見学したりオランダ家庭料理の昼食を取りました。

1.2/アムステルダム国立博物館前での記念撮影です。3.4/運河クルーズです。5.6/アムステルダムでの昼食です。



「デルフザイル市」へ

●アムステルダムからデルフザイル市まではバスで移動しました。約3時間です。バスの中(写真8)では、ゲームを楽しんだり、お別れ会で歌う歌の練習を行いました。練習後に団員の口から「一体感を感じたよね」の一言。それを聞いた時にはとても嬉しかったし、同時にホストファミリーとも同じ気持ちになることを願いました。渋滞があり少し遅れましたが、デルフザイル市には夕方到着しました。音楽隊の演奏が終わるのを待つ間、ホストファミリーのフラッシュをたくさん浴びました。団員たちは緊張状態のまま音楽協会の建物に入り、スプライトやファンタをいただきました。お世話をされるヨハネスさんから歓迎の挨拶(右上写真)を受けた後、団員の相原さんによる立派な挨拶がありました。他の団員もお世話になるホストファミリーの前で頑張って自己紹介していました。みんなよく頑張った!!その後はホストファミリーと帰宅しました。

7/到着しすぐにヨハネスさんと握手をしました。
9/ヨハネスさんからの歓迎挨拶がありました。左は通訳の夏見さんです。10/到着してほっとする団員たち。



8月2日

午後からのアクティビティ

●ホストファミリーの家に泊まって最初の朝を迎えました。涼しい朝です。午前中はそれぞれでショッピングなど自由な時間を過ごし、全員が再会したのは午後になってからです。3班に分かれ、大自然の中でのいかだ作りや田舎ゴルフ(先端が木靴になっている)、アーチェリーなどを楽しみました。驚いたのは団員のほとんどが既に水着を着ていたことで、もしかして泳ぐの？ 寒いよ？ と思いましたが、気がつけば「ドボン!!」。無邪気な団員たちに水の温度なんて関係なしでした。一瞬一瞬を楽しむ姿は団員とホストファミリーのわずかに残っている緊張感をほぐしてくれました。当然ながら説明は英語(たまにオランダ語)でしたが、こういった活動の場合、ジェスチャーだけでも十分理解できるので、団員たちは英語を使ったり、心を通じ合わせての会話をしていました。また、帰る頃にはオランダ語で「Tot straks (また後で)」が話せるようになっていたのはビックリしました。



1/グループに分かれていかだ作りをしました。
2.3.4.5/いかだをこいだり、アーチェリー、田舎ゴルフなどを楽しみました。
6/ホストファミリーと一緒に移動しました。



夕方は交流会です

●交流会のスタートは、チーズ、ハムを使ったパンケーキ作りです。バターのいいにおいとたっぷりの粉砂糖がオランダ風。これなら日本に帰っても作れるかも。おいしくいただきました。後半はオランダ伝統のゲームでしたが、開始早々「おもしろい!」と早くもオランダ文化が気に入った様子でした。しかし突然トイレに駆け込む団員たちの姿・・理由は「ドロップの早食い」(写真9)です。日本人の口には合わないと言われるお菓子。私は飲み物とセットでないと食べられません。そのほか目隠しでパンケーキを食べたり(写真11)、過去の写真を眺め交流を振返る場面があったりと、夜11時ごろまで盛り上がりました。

7/ホストファミリーとパンケーキを作りました。8.9.10.11/オランダ伝統のゲームを楽しみました。



8月3日

ワッデン海クルーズ

● 温かい午後、デルフザイル港での団員たちは、すっかり家族に溶け込んでいました。気づいたのは写真の笑顔にもあるようにホストファミリーの明るい表情です。交流はお互いの関係作りだとすればホストファミリーも私たちと同様に様々な心の壁を持っていたのかもしれませんが、干潮時にはなかったためアザラシは見れませんでした。寒い時は暖めあったり、ジュースで「proost(乾杯)」したりと親睦を実感した船旅でした。(船上ではチュッパチャップスをいただきましたが、胡椒入りは完食できませんでした。それと添乗員の西嶋さんが蜂に刺されました。無事でした。)



楽しかった船旅です。乗り始めは良い天気でしたが、次第に風が強くなり小雨が降ってきました。



港でのハーリング (生ニシンの丸ごと食べ)

● 港に帰った後は、初めての「ハーリング (生ニシンの丸ごと食べ)」に挑戦しました。塩漬けたニシンを玉ねぎと一緒に食べますが、上を向いて口に放り込むのがオランダ流です。(ただ上を向いたらカメラばかりで恥ずかしかったのですが・・・) やせ我慢して「おいしい!」と言いましたが2匹目は無理でした。気がつけば団員たちに「回転寿司を思い出したらいいよ!」とアドバイスしていました。なぜホストファミリーが食べないの不思議でしたが深く考えず、私たちは少しずつオランダ文化を知っていきました。(中には2匹食べる団員がいました。脱帽です。) その後はそれぞれのホストファミリーと夕食やボーリングに行ったりと自由な時間を過ごしました。

団員全員が一斉にニシンを食べました。中にはホストファミリーから「写真撮れなかったからもう一回食べて」と言われていました。

8月4日

帝人アラミド社の見学

●この日は朝から帝人アラミド社の見学です。デルフザイル副市長も同行されました。工場の説明は日本人の方が日本語で行いましたが、アラミドファイバーの話は団員にとっては難しかったようです。一方的な説明だけでなくフリートークも用意されており「オランダで勉強したい人？」の質問に8人ぐらいが手をあげたのは喜ばれました。団員たちの表情からは思いつきではない強い意志を感じ、団員たちの10年後を想像しました。社員の方は最後に「今回できなかったこと、行けなかった場所があるならチャンスです。それを次の目標にしながら成長してください。」と話を締めくくりました。場内見学は大雨で中止となりその代わり記念撮影がありました。



会議室での記念撮影です。社員の方はとても親切でした。



1

市役所を表敬訪問

●市役所の表敬訪問では、議会場に副市長や助役の方々、ホストファミリー、団員らが席に座り、まず副市長から歓迎の挨拶をいただきました。(写真2)訪問団からはこれまでの友好関係の価値と多くの方への感謝の気持ちを丁寧に伝えました。ツヨシ君のぬいぐるみも大変喜ばれ友好親善に一役かいました。(頭を抱えるポーズの説明は写真を使いました。)その後、団員たちやホストファミリーが昼食をしている間、助役(教育担当)の案内で市長室等を見学しました。特に感動したのは、周南市室に飾られた数々の写真(永源山公園の夢風車など)や置物です。周南市との関係を大切にされていることが伝わってきました。また、「芸術の面でも交流を深めたい」との想いについては目頭が熱くなりました。ぜひ叶えたいものです。



2



3

1/和やかな記念撮影でした。
3/会議場での昼食は、パン、チーズ、ハムなどでとてもおいしかったです。チーズの多さにビックリでした。4/放水体験です。5/消防服を着ました。

消防署を見学

●市役所の表敬訪問の緊張から解放された団員たちは、消防署で自然な笑顔を見せていました。「ワー、キャー」青空に向かっての放水を楽しみました(左写真)・・・歴史的な建築物の見学ではなく身近な存在の消防署の見学でしたが、どんなことにも興味を示す団員たち。日本と違う消防車などを熱心に見入る姿勢は、学ぶ意欲を感じさせ、オランダでの成長の早さを裏付けるものでした。いつの間にか話せるオランダ語も増え「Dank u wel (ありがとう)」と感謝の気持ちを伝えていました。



4



5



最後の夜「お別れ会」

●夕方7時からはお別れ会です。ヨハネスさんは団員たちやホストファミリーへの感謝の気持ちを述べ、「言葉や文化の違いを乗り越えとても良い交流ができた」と振り返りました。団員の船井さんも感謝の気持ちを心から伝えることができました。私たちは出しものとして、日本の歌「世界に一つだけの花」を披露しました。日本語でしたが曲後半の「LaLaLa～」では全員での合唱となり、終わりとともに大拍手となりました。みんなよく頑張ったと思います!!青木くんと西村さんの空手披露は緊張感があり、日本文化の良さを伝えることができました。「2人は戦わないのか？」などの質問もありました。その他にもホストファミリーと腕を組んでダンスをしたり、フルーツバスケット、カラオケをしたりと最後の夜を時間の許す限り楽しみました。しかし明日はいよいよお別れの日、団員たちに「悔いのないようにね。」とだけ伝えました。

1/「世界に一つだけの花」を歌いました。
3.4/空手の披露やダンスを楽しみました。



8月5日



デルフザイル市との別れ、家族との別れ

●出発の日には少し肌寒い朝でした。団員たちはすでに泣いていました。ホストファミリーも泣いていました。ホストファミリーを悲しませたくないという涙をこらえる人もいました。別れることの寂しさ、たくさんの愛情への感謝、やり遂げた達成感、もっと勉強してもっと話したかった想い・・・地球の反対側にできた新しい家族たち。「帰りたくない」「もっといいよ」の言葉はバスの出発を遅らせました。多くを学んだ4泊5日。団員たちの表情を見ると、所期の目標であった「ホームステイで交流したい」「生活を体験したい」「いろんなことを学びたい」などが達成され、団員たちに変化があったことを感じ取ることができました。(お別れの際には、ほったたを左右交互に3回合わせるオランダ流の挨拶もありました。)

ホストファミリーと最後の挨拶を交わしました。





涙をぬぐっての記念撮影でした。



ユトレヒトでの観光

● 3時間かけてユトレヒトに到着しました。まずはパンケーキのランチ。巨大でした。そしてオルゴール博物館。館内にあったのは永源山公園にあるものと同様のオルゴールでした。「これ周南市にもあるよね!」と団員たち。何気に見てきた周南市の風車やオルゴールですが、歴史的な価値を知りオランダとの繋がりについて伝えなければならない使命感を感じました。その後はミッフィーで有名なディックブルーナハウスに行ったりと、団員たちはおしゃれな街並みに感動し地元音楽生の路上演奏に耳を傾けながら、クラスメイトや家族へのお土産を買いました。夜になりホテルに戻ると「もう一度ホストファミリーと話したい!!」と数人の団員。2ユーロを握りしめ駅の公衆電話から伝えきれなかった気持ちを伝えました。目に涙を浮かべて「相手の言葉が分からなかった、けど向こうも泣いていた」・・・団員たちの素直な表現でした。理解しあうために言葉は必要です。でもその前に心が必要であることを教えてもらった瞬間でした。明日はいよいよオランダを出発。この日の夜は、とても長い夜でした。

1/ドム塔が見える広場での記念撮影です。2/ユトレヒトでのランチは巨大なパンケーキでした。3/ディックブルーナハウスでお土産を買いました。



地元紙・ホームページ

掲載内容

音楽協会ホームページ



地元各紙



Warmte vriendschap Shunan City en Delfzijl

デルフザイル市役所ホームページ

5-8-2008 - Voor de negende keer bracht een delegatie uit Shunan City een bezoek aan Delfzijl. Twaalf Japanse scholieren, hun begeleiders en de gastgezinnen werden gistermiddag hartelijk welkom geheten door wethouder Joop Boertjens en kregen een lunch aangeboden.

Delegatielider Masanori Hanano bedankt de gemeente en de gastgezinnen en organisator Johannes Swart voor hun gastvrijheid en sprak net als wethouder Boertjens de hoop uit dat er tussen Shunan City en Delfzijl nog vele jaren een uitwisselingsprogramma blijft bestaan. Niet alleen omdat de uitwisseling van jonge mensen belangrijk is voor hun persoonlijke ontwikkeling, ook omdat het duidelijk bijdraagt aan versterken van wederzijds begrip en de onderlinge samenwerking.



Foto: Robb Akerboom

Japanse jeugd in Delfzijl

DELFIJL - Een Delftse jeugdgroep, die twee jongens, twee meisjes en twee jongvrouwen omvat, heeft op zaterdag 5 augustus Delfzijl bezocht. De jeugdgroep is onderdeel van de Japanse delegatie die op zaterdag 5 augustus Delfzijl bezocht. De jeugdgroep is onderdeel van de Japanse delegatie die op zaterdag 5 augustus Delfzijl bezocht. De jeugdgroep is onderdeel van de Japanse delegatie die op zaterdag 5 augustus Delfzijl bezocht.

Japanse jeugd bezoekt Delfzijl

DELFIJL - Vertien jongeren uit de Delftse jeugdgroep, die twee jongens, twee meisjes en twee jongvrouwen omvat, heeft op zaterdag 5 augustus Delfzijl bezocht. De jeugdgroep is onderdeel van de Japanse delegatie die op zaterdag 5 augustus Delfzijl bezocht. De jeugdgroep is onderdeel van de Japanse delegatie die op zaterdag 5 augustus Delfzijl bezocht.

Japan

Japan is een land met een rijke cultuur en een lange geschiedenis. Het is een land met een grote diversiteit aan landschappen en een grote diversiteit aan mensen. Japan is een land met een grote diversiteit aan landschappen en een grote diversiteit aan mensen.

消防署ホームページ



De Delftse jeugdgroep, die twee jongens, twee meisjes en twee jongvrouwen omvat, heeft op zaterdag 5 augustus Delfzijl bezocht. De jeugdgroep is onderdeel van de Japanse delegatie die op zaterdag 5 augustus Delfzijl bezocht.



Delfzijl Map



ぼくのホストファミリー
スペールマンさんと一緒に

平成 20 年度
Delfzijl
友好親善
訪問団

デルフザイル市友好親善訪問団に参加して

周南市立富田中学校 1年

深來 健一郎

Kenichiro Fukaki

第

一章 出会い

「どんな顔をして、どんなあいさつをしようかな。」

ぼくは緊張していた。ホストファミリーのスペールマン一家は、ぼくのことを温かく迎えてくれるのだろうか。

その不安は、すぐに吹きとんだ。

「ハイ、ケン。」

大きな手を差し出してくれ、温かい握手と満面の笑みでぼくを迎え入れてくれた。

第二章 ずぶぬれ

交流会の中では、サバイバルゲームが一番心に残っている。サバイバルゲームとは、鋭い葉の草原を走り抜け、丸太やロープを使い川を渡り、木の繁みをかきわけてゴールを目指すゲームだ。ちょうど雨が降り始めていて、丸太の橋はすべりやすくなっていた。案の定、ぼくだけ川へ落ちてしまい、腰までずぶぬれだ。ミスタースペールマンも大笑い。何と恥ずかしかったことだろう。でもこれで一気にみんなとの距離も近くなった。ずぶぬれにあった事は、日本の両親にないしょにしておこうと思っていたが、その日のうちに、ミスタースペールマンが日本へメールをしていて、ぼくのずぶぬれの事件は知れ渡っていた。

その後は、いかだを作り、川へこぎ出た。



一度ぬれているから、怖いものなし。川へ飛び込んで泳いだ。川の水はすごく冷たかった。ずぶぬれの洋服や靴を洗うことになり、ミセススパーマンには、迷惑をかけてしまった。ごめんなさい。

デルフザイルで過ごして分かった事。オランダにはサマータイムがあり、夜が長いので、家族や友人と夜を楽しむ時間が多い。夜に、ティータイムがあったりおしゃべりタイムがあったり、とにかく夜が長いのだ。

写真などで、オランダには高い山はなく、広い平原であるのは知っていたが、自分の目で見て、限りなく続く緑の平原に感動した。風車も石だたみの街並みも調和していて、ぼくの目に深く刻まれた。また、マヨネーズやケチャップという言葉は、オランダから日本へ入ってきた言葉だそう。

第三章 あの笑顔をおぼろげに
あつという間の五日間だった。どの体験も心に深く残って入る。初めは、言葉が通じることが不安だったが、知っている英語を話し、時には辞書を指さし、身ぶり手ぶりで、ぼくにコミュニケーションがとれたと思う。スパーマンファミリーは常に行動を共にし、いつも笑顔で話しかけてくれた。写真も山のようにある。どれも笑っている。

お別れの時は、やっぱり涙が出た。今度はいつ会えるのだろう。いや、いつかきっと彼らに会おうと心に決め、デルフザイルを出発した。

思い出すのは、いつも笑っているあの顔。ぼくは、あの笑顔をおぼろげに忘れない。笑顔は世界共通だから。
 Dank・ウェル。



- 1 デルフザイル市役所前でみんなと記念撮影
- 2 消防署での放水体験
- 3 オランダの名物 ニシンを食べる
- 4 サバイバルゲーム アーチェリー





これはデルフザイル市の市役所前で、友達のホストファミリーと一緒に撮った写真です。(私は左から2番目)

デルフザイル市友好親善訪問団に参加して

周南市立岐陽中学校 2年

稗田 麻衣

Mai Hieda

私

はこの九日間で、たくさんの事を体験し学び成長することができました。

オランダのスキポール空港に着いた後はホテルのチェックインをしてその後夕食を食べました。初めてのオランダ食だったから食べ方などに戸惑いはありました。でも味がとてもおいしかったです。

オランダ二日目はアムステルダム市内視察をしました。国立博物館ではたくさんの有名な絵を見て、記念にポストカードを買いました。運河クルーズはオランダの景色をたくさん観ることができました。とてもきれいでした。その後はバスでデルフザイル市に行きホストファミリーと対面し一緒に帰宅しました。英語が分からず大変だったけどにかく笑顔でいました。夜は海を散歩したりしてとても楽しかったです。

三日目は午前中ホームステイプログラムでアザラシを観に行きました。日本とは飼育のし方が少し違いました。アザラシもとても可愛かったです。大きい人形も買ってもらった。午後は全員が集合し、川や森を使って遊びました。綱わたりや丸太わたり、ゴルフ、ダーツ、ボートこぎをしたりしました。川に落ちたりして大変だったけどとても楽しかったです。夕方はみんなでパンケーキ作りをしたり、ホストファミリーとゲームをした。この日はとてもたくさんの人と交流を深めることができました。

四日目は午前中、私が家族あてに書いた様書きをホストファミリーの次女のシモナと自転車でポストに出に行きました。午後は船に乗ってドイツまで行きました。



- 1 これはディック・ブルーナハウスに置いてあったディック・ブルーナの置物です。
- 2 これは運河クルーズで通った運河の前で撮った写真です。
- 3 これはオルゴール博物館の中のオルゴールの前で撮った写真です。
- 4 これは友達のホストファミリーの子と消防署で撮った写真です。



船の中ではジュースを飲んで話をしたり、外を観たり、UNOをしたりしました。デルフザイル港に着いた後帰宅しました。その日の夜は飯はフライドポテトとチキンナゲットみたいなのでした。量がとても多かったけどすごく美味しかったです。

五日目は午前中から集合し、ホストファミリーといったん別れ、帝人アラムミッドを視察した。工場見学したり話を聞いたりした。成分の関係がよく分かった。たくさん記念品をもらった。その後はホストファミリーと台流し市役所内で昼食を摂った。午後は家族とテルフザイル市中心街でショッピングした。お土産を少し買った。夕方から楽団事務所でお別れ会とハーベキューがあった。お別れ会では皆で『世界に一つだけの花』を歌った。できはとも良かった。音楽にのっておどったりもした。本当に楽しかった。

六日目は早朝に集合し、すぐにお別れバスに乗った。ホストファミリーの皆とお別れするのはとても悲しかった。その後はユトレヒトへ行きオルゴール博物館やブルーナハウスに行った。オルゴールはとても大きく音も大音量できれいで立派だった。ブルーナハウスではたくさんお土産を買った。ミッフィーちゃんだけでなくとても可愛かった。その後ホテルに行き次の日帰国した。この六日間とても楽しい日だった。ホストファミリーも優しくてたくさん思い出ができた。日本に帰りたくないくらい本当に楽しかった。学んだことをこれからも精一杯生かしていきたい。



ボート乗り場近くの川で取った写真です。この日はボートに乗って観光しました。
(私が左)

デルフザイル市友好親善訪問団に参加して

周南市立岐陽中学校 2年

福谷 洋子

Yoko Fukuya

私

は、友達にさそわれて、国際交流に参加しました。自分はオランダのことは何も知らないし、英語を話すのも苦手でした。そして団員の人たちと、仲良くなれるかも心配でした。

そして交流会が始まりましたが、一目から、たくさんの人と友達になりました。最初心配していたことも全部なくなりました。ホテルでも夜には一つの部屋に集まって、みんなで話しました。

翌日、ついに日本を出る時がやってきましたが、何より心配だったのが離陸でした。友達が怖いよと言っていたので心配でした。思っていたよりは怖くなかったで良かったと思いました。

そして、いよいよ、ホストファミリーと対面です。自分の家族は子供が一人の三人家族でした。とてもやさしそうな家族なので安心しました。しかし、やさしい分テンションも高くて、家で振りまわされてかなりつかれました。面会した次の日、他のホストファミリーとも一緒にみんなでゲームをしました。アーチェリーやボールをころがしながら進むゲームもしました。中でも一番楽しかったのはカヌー体験でした。かなりフラフラしてあぶなっかしいところもたくさんありました。カヌーからおりた後、川に入るか入らないかまよっていたら、突然外人に落とされてビックリしました。その後もみんな上がっては落とされるのくり返しでした。それがとても楽しかったのをよくおぼえています。

次の日、海を船で観光しましたが、まいちゃんとしーちゃんと自分はよいやすかったので二階へ行

きました。三人で写真ととり合いました。そのうち中学生組で「ウノ」というゲームをしました。夢中でやっていたら、いつのまにか船は港へついていた。

ついにホームステイもあと一日になりました。なので、その日はみんなでおわかれ会をしました。焼肉を食べたりジュースを飲んだりした後、ゲームでフルーツバスケットをしました。外人の方におそわれてこわかったです。ゲームの中で一番きつかったのは茶色のヒモみたいな物の先の白い物を早く食べるというゲームでしたが、それがとてもマズくて苦しかったです。

次の日の朝、いよいよホストファミリーとお別れです。泣いている人もたくさんいました。バスに乗ってもずっと手を振っていました。その後、ユトレヒトで買い物や観光を楽しんだ後、またホテルでみんなと遊んだりして楽しみました。その日は、まいちゃんと自分の部屋にミッキーと友加子と一緒に寝ました。この交流会で一番仲良くなったのは友加子でしたが、ベットのの上では、マクラとふんとのとり合いがはげしかったです。それも楽しい思い出の一つです。飛行機で日本へ着き新幹線に乗りましたがほとんどの人がつかれきって寝ていました。山口についよいよこの国際交流をやってきたみんなともお別れしました。



- 1 ホームステイの方々と一緒にオランダとドイツの間にある海の観光をしました。
- 2 オランダの町見学でオルゴール博物館に行きたくさんのオルゴールを見ました。
- 3 この日は交流会としてホストファミリーの人たちとたくさんのゲームをしました。
- 4 デルフザイル市に行く途中の2種類の海の境にある展望台で取った写真です。





デルフザイル市 友好親善訪問団に 参加して

周南市立菊川中学校 2年

西村 瞳

Hitomi Nishimura



私

が今回、デルフザイルを訪問して感じたことは二つあります。

一つは、言葉が通じなくても、過ごす時間が短くても、人は仲良く心を通わせることができるということです。

私の最初の目標は、できるだけたくさんの人と話すことでしたが、実際に行ってみるとなかなか難しいものでした。英語の単語で何と言えばよいのか頭の中に浮かんでこなくてとまどいました。単語がわかれば、もっとたくさん話せたのに、とても残念でした。今回の訪問で唯一の後悔です。

しかし、言葉が通じなくてもホストファミリーや他のデルフザイルの方と仲良くなることができました。もちろん、これはホストファミリーやデルフザイルの方の思いやりがあったのですが、「なんとかなる」という自信のようなものをもちました。

二つめは、もっと多くのことを学び、知って、もっと多くのことを経験しなくてはと何度も感じました。

世界には私の知らないこと、見てないもの、やってないことが本当にたくさんあるということです。

たとえば、オランダの大きい河では舟みたいに家が浮かんでいました。びっくりしました。土地の有効利用だなと思うのですが、新聞や手紙は届くのだろうかと疑問に思いました。また、食事で甘いものをたくさんとっていました。甘い炭酸のジュースを飲んだり、ベーコンをいれたパンケーキに砂糖をか



<オランダで放水体験！>

消防署の見学をさせていただきました。実際のホースを使って放水をさせていただきました。支えてもらっているにもかかわらず、ホースはとても重くてこんな重いものをもてるなんて消防士はこの国もすごいと思いました。



<いかだ完成>

みんなで作ったいかだをいよいよ川に浮かべているところ。このいかだは、乗る時も降りる時も細心の注意を払わないとひっくり返りそうで、相当怖かったです。でも、とても楽しかったです。



<おいしい？お菓子で競争>

早食い競争をしているところです。この黒いヒモ状のものはグミのようなもので、手を使わずに一番先に食べきった人が勝ちです。みんな普通に食べていますが味はとても……。日本人の口にはう〜ん。帰ってから調べたのですが名前は「ドロップ」。リコリスというものが入っていて体には良いそうです。

けたりする人が多かったです。甘いものの好きの私にとっては、うれしい食事でした。でも、不思議なことには、甘いものをたくさん食べているのにスマートな人が多くて、うらやましかったです。そして、ワッデン海のクルージングのときのことですが、船に二つの国旗がつけてありました。気になって聞いてみると、国境沿いにクルージングするときは、オランダとドイツの国旗をつけていないと銃で撃たれてしまう可能性があるということでした。日頃の生活では、国境というものを意識することなどなかったなかったので、意外でした。

世界の全てを知ることには無理だけど、できる限り多くのことを経験して、多くのことを学んでいき

たいと思いました。もちろん、その中には、もっともっと英語を勉強すること、またオランダに行って今回以上に多くの人と積極的に話し、仲良くすることはいっています。

このようなことを今回のデルフザイルの訪問を通じて感じたり、考えたりすることができてとても良かったと思います。

アムステルダム、ユトレヒトの市内観光、ホストファミリーと過ごした時間、どれも生まれてはじめての体験で、本当に素晴らしいものでした。訪問団に応募したときに、団員に選ばれないかという不安もあって、より一層、喜びを感じた九日間でした。

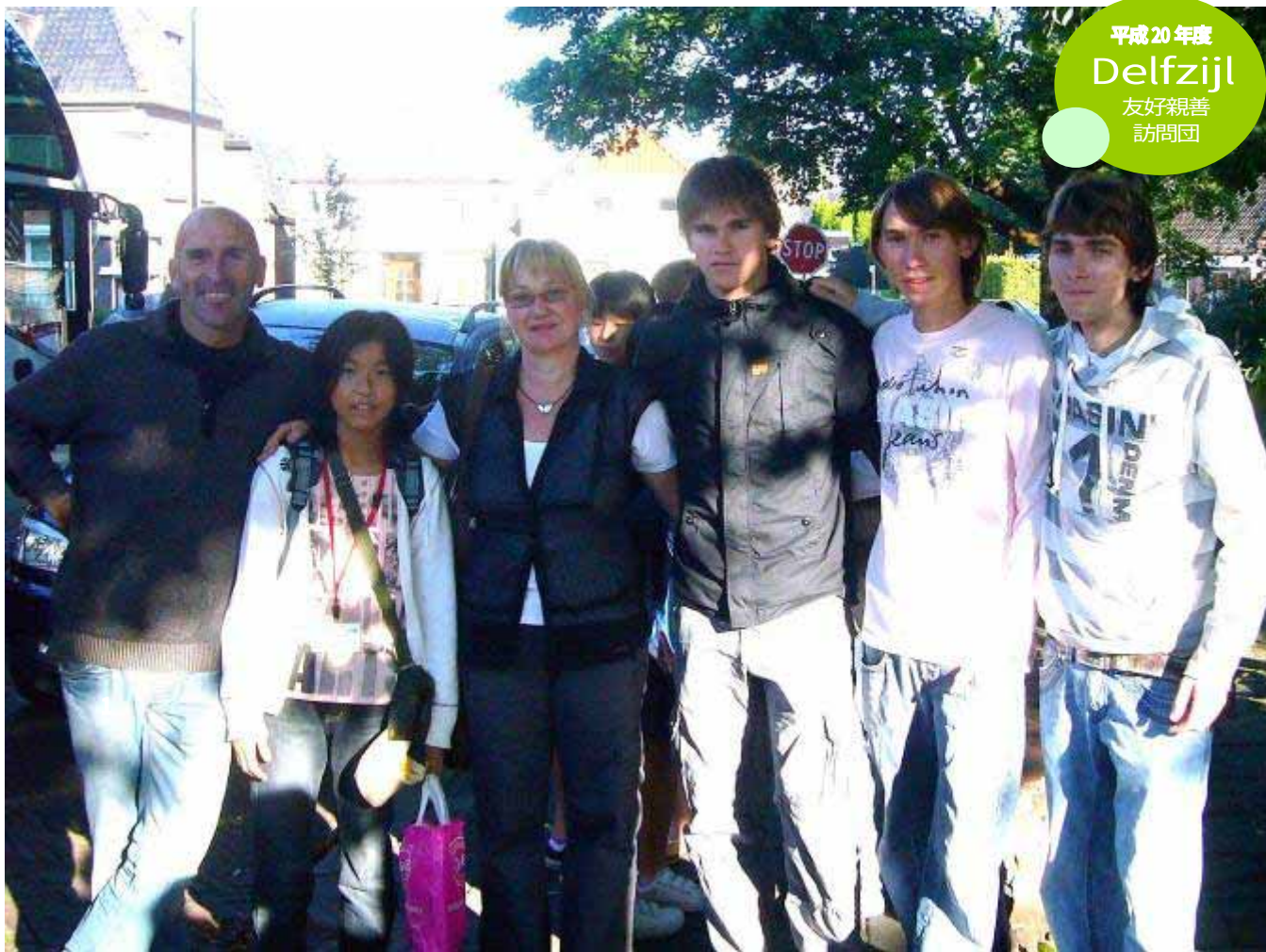
<ワッデン海クルージング>

1 ワッデン海を船でクルージングしました。行きは暖かったのに、帰りは風が強くなってとても寒かったです。ホストマザーのイーダさんがあたためてくれました。とてもあたたかかったです。

<国旗の前でゲーム>

2 ホストファミリーのみなさんとオランダのコマ遊びをしているところ。コマを回して小さな溝に小さな磁石を入れていく遊び。みんなが簡単に入れていくのに、私は全然はいらなくて悔しい思いをした。





この写真は、帰国前にホームステイの家族全員で
とった写真です。お父さん、
お母さんもとても優しく、
お兄ちゃん達とも楽しく過ごすことが
できました。

デルフザイル市友好親善訪問団に参加して

周南市立熊毛中学校 1年

藤田 汐理

Shiori Fujita



今

今回、オランダデルフザイル市友好親善訪問団として十三人が参加しました。直前に一人の団員が参加できなかったことが残念でしたが、十二人元気に訪問することができ、たくさんの想い出ができてよかったと思います。

私は、ホームステイをするのが今回で二回目です。前回はカナダのバンクーバーに行きましたが、二人でホームステイをしました。しかし、今回は一人でホームステイをするということで、とても緊張しました。家族と仲よくできるだろうか、お兄ちゃんが三人いるけどどんなお兄ちゃんだろうか、と不安でいっぱいでした。でも、ホームステイする前にメールのやり取りで、「心配しなくても大丈夫よ・・・」と書いてあり、ワクワクしながら早く行きたいという気持ちになりました。

私は、なるべくたくさんの人と話がしたいという思いでオランダに行きました。実際、何を言っているのかわからない時もあり、どうしようと思うこともありました。しかし、何でもいいからとにかく話そうと努力をし、だんだん慣れてきたら少しずつ言われていることが理解できるようになり、答えられるようになりました。英語でほとんど会話をしましたが、オランダ語でも「ヤー/おネー（はい）いいえ」と答えるようにし、そうすることで家族にも喜んでくれたと思います。

オランダは日本よりも気温が低く、十八度ぐらいで夏でもとてもすずしく、過ごしやすかったです。日本に帰ってきたら、とても暑く、オランダのほうがよかったと思いました。食べ物はありません口に合

ませんでした。パンはとてもおいしかったけど、ご飯が食べたいと思いました。私は、日本の食べ物を家族に食べてもらいたいと思い、インスタントみそ汁を持って行きました。お母さんはおいしいと言っていました。お兄ちゃんたちは今一つの顔をしていました。他に日本のお土産として、箸と扇子・うちわを持って行きました。扇子は気に入ってもらえたようで、お兄ちゃんも使っていました。

ホームステイしたボスヘル家は、大きな農場で小麦を作っているようでした。家もとても大きく、家の周りは川が流れていて、近所の家も見えませんでした。自然にいっぱい囲まれていて住むにはとても環境のよいところでした。長男のロバートは、私にトラクターの運転をさせてくれました。オランダでは十歳ぐらいから運転ができるそうです。私はまだ十歳だけど運転をさせてもらいました。とても大きなトラクターで怖かったけど、大自然の中で運転するのは気持ちがよくて楽しい思い出になりました。

他にもたくさん経験をしました。いかだを作ったり、ハイキングをしたり、交流会ではパンケーキを作ってみなで食べたり、どれも楽しい思い出となり、楽しい日々を過ごすことができました。これからもたくさんの人との出会いを大切に、もっともっと世界中の人々に会い、いろいろな国に行きたいと思いました。

今回、参加させていただき、企画関係者、ホストファミリーの方々に感謝致します。ありがとうございました。



3



1



4



2

- 1 こんなに大きなトラクターでした。
- 2 みんなと船に乗って楽しかったです。
- 3 ホームステイをした家です。とても大きな家で、私はこの一番手前の部屋に泊まりました。
- 4 ゆめ風車のモデルとなったエオリスの風車の前でホームステイをした三男のサンダーと写真を撮りました。

平成 20 年度
Delfzijl
友好親善
訪問団



- 1 クルージングの写真。
ホストファミリー全員
とりました。
- 2 市役所訪問の写真。
プレゼントされたC A
Pをかぶりました。



デルフザイル市 友好親善訪問団に 参加して

周南市立周陽中学校 2年

船井 美咲

Misaki Funai

私 は、今回のデルフザイル市友好親善訪問団に参加して、様々な体験をすることができました。

まず、今まで知らなかった人と共に行動することです。オランダに行ってから、もちろん知らない人ばかりでしたが、それ以前にこの訪問団の団員と、仲良くなれるかということが不安でした。けれども、初日から意気投合することができ、最終日まで良く団結して行動できたと思います。

デルザイル市に着いてからは、予想以上にホストファミリーと行動することが、大変でした。その家に滞在させてもらい、お世話になっているということもあり、初めはどうしても、気を遣ってしまいました。しかし、ホストファミリーは、私のそんな態度にも、温かく接してくれました。その気持ちがとてもうれしく、本当の家族と同じくらい、親しくことができました。

私はこの訪問で、相手に自分の思いを伝え、日本とは違ったオランダの文化を感じることが、目標でした。実際に体験してみると、使う言葉が違っても、思いを伝えるということは、簡単だと分かりました。辞書を使えば、英語はすぐに分かるし、私自身が数単語のオランダ語を、少しだけ覚えることができていました。そして何よりも、オランダ語・英語を使わなくても、表情やジェスチャーを使えば、思いが伝わるということです。このように、外国人の人とコミュニケーションをとる機会は、今後あまり無いと思います。この貴重な経験を大切にしていきたいです。

- 3 ホストファミリーとの写真。
- 4 消防署見学の写真。
ホストファミリーのお父さんにヘルメットをかぶせてもらいました。
- 5 交流会の写真。オランダのゲームを教えてもらいました。



また、オランダの文化と日本の文化についてもしっかりと感じる事ができました。オランダと日本では、食文化・生活習慣など、様々な面から違いがでてきます。しかし、どちらの国の文化も、それぞれの国の個性や特徴が生かされていて、すばらしいと思います。中でも、私が一番興味を持ったのは、街の中の、植物の多さです。私達が、ホームステイを体験したデルフザイル市は、緑が多いところでした。スキポール空港の近くには、畑が広がっていたし、アムステルダムのホテルの周りには、多くの木が生えていました。街の中にも、ところどころ木や花の植木鉢が置いてあり、植物の多さを感じました。私が、一番おどろいたことが、街灯の周りに花を咲かせていたことです。私の家の近くの街灯は、どれも暗いイメージがあるので、こんな街灯に変わったら、華やかだろうと思います。そして、周囲市も、オランダのように植物いっぱい市の市になれば良いと考えました。

このように、私はこのデルフザイル市友好親善訪問団に参加することで、多くのことを経験・学び、自分なりの考えを持つことができました。全々が、良い思い出となりました。これからの日常生活においても、学んだことは、生かしていこうと思います。また、これからも今回のような交流の場に、進んで参加していこうと思います。



- 1 ホストファミリー
ーヴィン家の人々と
町の市場で
- 2 ぼくが泊まった部屋
で 長男ロビーとギ
ターゲームで盛り上
がった。



デルフザイル市 友好親善訪問団に 参加して

周南市立太華中学校 1年

青木 亮磨

Ryoma Aoki

デ

ルフザイルの楽団事務所につくと、そこに
は、オランダ名産の木靴をはいた音楽団
とホストファミリーが待っていた。

ぼくにとっては、初めてのホームステイで期待と
不安が入り混じった中での出会いだった。

お母さんと、長男ロビー、次男ニコ、三人が住
む家のホーヴィン家が、これからお世話になるホス
トファミリーだった。

家に着くと、リビングには、習字や「秋吉田」の扇
子が一番目にあった。ホーヴィン家は日本好き
で、服も日本の物を着ていて、オランダ語を日本語
に直す本や機械を持っていた。日本からのおみやげ
を渡すと、日本語で「ありがと」と言ってくれた。
その後、車で市場に行き、的当てをして楽しんだ。
ロビーの働いている保険会社も案内してもらった。
ロビーの机は大きく、和むような雰囲気、三階か
らの景色は、デルフザイルが一望できた。夕日が街
を照らし、街全体が輝いて見えた。

二日目の朝、ホストファミリーが、博物館に連れ
ていってくれた。思うように話せないけど、少しで
も相手に気持ちを伝える為、ジェスチャーで表現し
たり、笑ったりして、コミュニケーションがとれる
ようになった。昼のアドベンチャーは、草が痛くて
苦勞し、川渡りでは、オランダの方のパフォーマン
スで皆が楽しむことができた。いかだでは、乗って
いた一人が川に落ちると、あとの三人も川に飛びこ
んで、寒かったけど気持ち良かった。弓矢は、難し
かったけど、うまくいけば、ハイタッチして喜ぶこ
とができた。

- 3 オランダ風パンケーキを焼いて、みんなで食べた。
- 4 市場で次男ニコーとの当てをして、楽しんだ。
- 5 消防署で放水体験



三日目は、ロビーとニコーとのギターゲームが楽しくて、時間が過ぎるのも忘れて夢中になった。ボーリングでは、オランダの子供の友達ができ、オランダ語で「がんばれ」という「コムオブ」を使って会話がはずんだ。

四日目の市役所では、副市長さん達と食事をして、デルフザイルの帽子をもらった。さらにそこでは、ロビーとニコーのお母さんが働いていて、市役所の中を奥まで見ることができた。お別れ会では、空手やゲーム、歌を披露して、焼肉をみんなで食べ、たくさんの人と踊って夜おそくまで楽しんでいた。

ホストファミリーからは、たくさんプレゼントと、ホームステイ中、ロビーが映してくれたデジタルカメラの画像のCDをもらった。明日の別れを考えると、「もう少しここにいたい」と心から思った。別れは悲しく辛かったけど、笑顔でと決めていたから、涙をこらえた。

オランダの夏は夜十時まで明るく、人々は早く仕事を終え、家族との時間を大切にするという風習があった。その家族のぬくもりがあったから、ぼくは、すぐになじむことができたのだと思う。ロビーが近年中に来日すると聞いたので、再会を楽しみにしている。

見た風景、出会った人々、ホーウィン家で過ごした時間、すべてが忘れられない感動の九日間となった。

ホストファミリー(ヴァーム家)の家の前で記念撮影!

デルフザイル市友好親善訪問団に参加して



山口大学教育学部附属光中学校 2年

守岡 友加子

Yukako Morioka

私

がオランダに行ってみて今心にのこっていることの一つ目は初めてオランダの人に自分の気持ちを伝えたことです。それは運河クルーズの船に乗ったとき、席が同じになったオランダの人に「一緒に写真を撮ってください」と伝えたことでした。私は「Excuse me」と知らない人、しかもオランダの人に言うのがとても不安だったけどがんばって言うてみるとすぐにこっちを向いてくれてちょっと安心しました。そのあと知っている picture や together の英単語を連発して言うてみたけど、なかなか伝わらなかったでジェスチャーをしたらなんとか自分の気持ちをオランダの人に伝えることができました。伝わったときはこれだけのことなのになんかとてもうれしくて、一番印象に残っています!

二つ目はホームステイしているときの朝食で私がパンにチョコスプレーをちよつとずつかけていたときのことです。ホストファザーが「Oh」と突然笑いながらドバツと皿いっぱいチョコをかけてくれました。私はビックリしたけれどもとても嬉しくて感激しました。ホストファミリーはとっても優しくておもしろかったです。

三つ目はホストファミリーに連れて行ってもらったフローニンゲンというところの町並みです。アムステルダムやユトレヒトとはちがいが私がいち描いていたオランダの町並みそのものでした。建物の一番上の窓辺からジュースを飲みながら見た景色はとてもかわいくて最高でした。でもカメラを持っ



て行くのを忘れて写真に撮れなかったのがとても残念でした。

そしてちょっと苦い思い出もあります。それは交流会でのゲームで食べたねずみのグミやワッデン海への船旅をしたあとに食べたニンジンなど、私がニガテな食べ物を食べたあとに「写真が撮れなかったからもう一度食べて」といわれて食べさせられたことです。私にとってはけっこうきつかったです。でもオランダの人は「ヤミヤミー」と言って食べていたので食文化の違いにびっくりでした。

また食べ物の事でいえば、私が食べてみたいと強く思っていた本場オランダのチーズ。実際食べてみ



ると日本のチーズより味が濃くておいしくてやっぱり本場はいいなあと思いました。ホストファミリーの家の冷蔵庫に大きいチーズがそのまま入っていたのにはびっくりしました。

私は日本へ帰って来た今でもオランダのことが忘れられません。「今オランダは何時だろう?」など、いつも考えてしまいます。私のあこがれていたオランダはとってもステキなところでした。この訪問に参加できたことをとても感謝しています。絶対またいきます!



- 1 ワッデン海への船旅のあと二度たべさせられた生のニンジン!
- 2 運河クルーズの船で出会って初めて会話をしたオランダの人たち!
- 3 ワッデン海への船旅の後、ホストファミリーとその友人の家族とレストランで!
- 4 ホストファミリーのお母さんの運転でホームステイ先の人達とドライブに出かけた運河の橋の上!



平成20年度
Delfzijl
友好親善
訪問団

国立博物館で芸術鑑賞
(私は中央です)

デルフザイル市友好親善訪問団に参加して

周南市立秋月中学校 2年

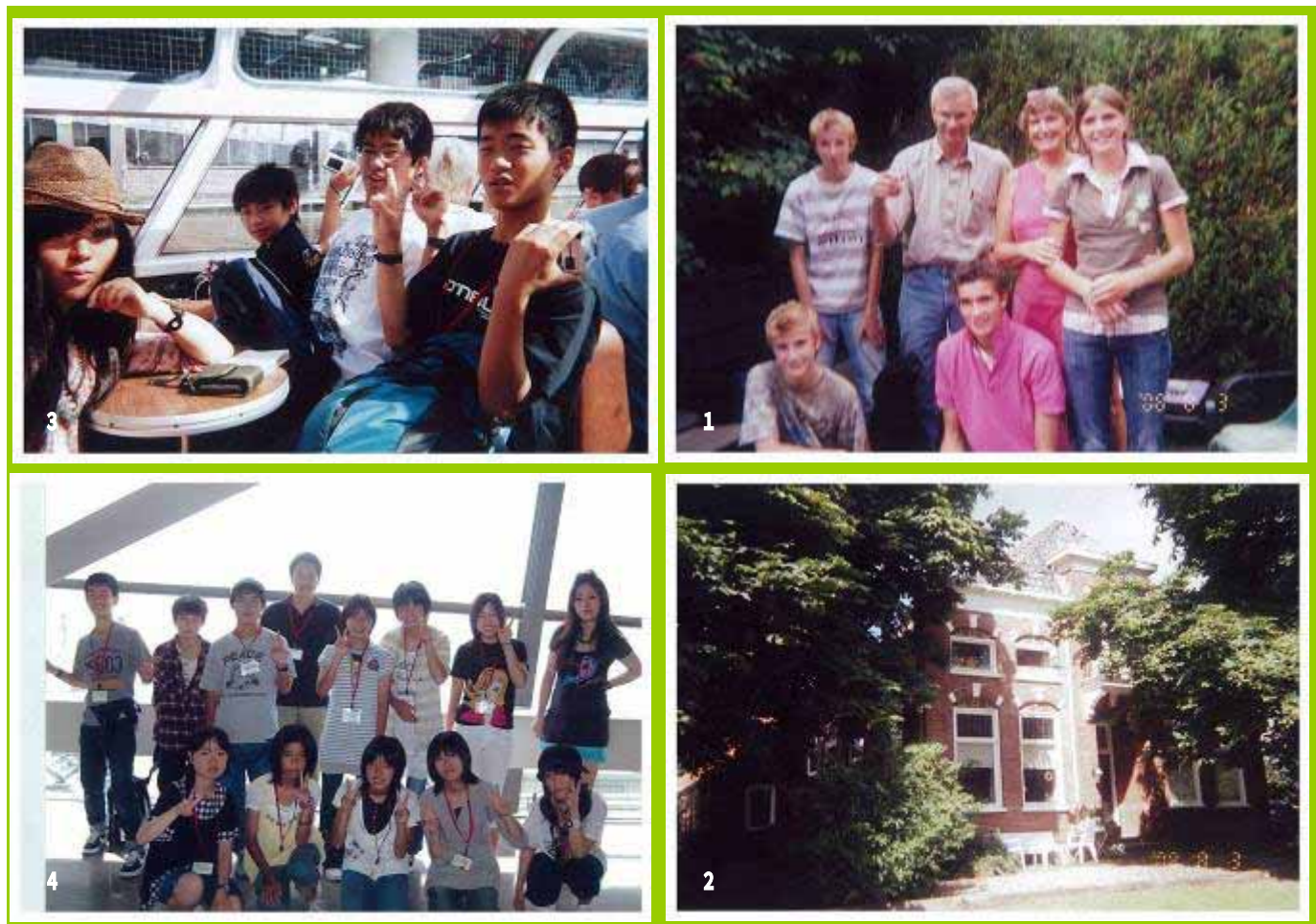
国次 一真

Kazuma Kunitsugu

デルフザイルを後にして、しみじみと心に感じたのは「出会い」の素晴らしさだ。このホームステイでは、数えきれないほどの出会いがあった。

日本を離れ、家族と別れて一人となった僕に、ある日小さな試練というべき出来事が起きた。その時、自分がいかに小さく弱い存在であるかを思い知らされ、さらに、デルフザイルの雄大さにのみ込まれそうな気分でした。しかし、その事によって、僕の心の支えとなる大切な人達に気付く事ができた。それは、ここで出会った、僕を笑わしてくれた全ての団員とデルフザイルの人々です。僕は笑顔の力は万国共通だと思う。言葉が通じなくても同じ嬉びや、楽しさを笑い合える事はとても幸せな事だと思う。特に僕のホストファミリーのお母さんは常に笑顔をやさしい人でジョークがとてもおもしろい人でした。父さんは家族の大黒柱としてしっかり家族や僕等を見てくれた人で双子の兄弟は僕と積極的に僕と接してくれた妹は僕等と常に遊んでくれたりしてくれたやさしい人で一番上の兄は兄さんとして最後まで楽しくふれあってくれた人。このブラウ家は五日間本当に楽しい日々と感じました。心にしみる優しさが、ブラウ家にあふれていたと僕は思う。あの時の涙は、自分のため、人のため、大切な人達のため、もっと強くなろうと決意させた瞬間だった。

いつの日か、また言葉によるコミュニケーションができるようになったら、もう一度会ってその時



- 1 ホストファミリーの人々が僕に忘れられない思い出を与えてくれました。
- 2 これはホームステイ先の家です。この家は300年も続いている由緒ある家だそうです。
- 3 たくさんの運河を目に焼きつけよう！
- 4 思いを広げ いざオランダへ



気持ちを伝えたい。

あのお別れ会で歌った世界に「つだけの花」。今も忘れられないほどの事だらけである。

この広い地球で国をも越えて出会えた事は奇跡だ。「めぐりあい」は素晴らしい。僕にとつての「巡り会い」は「恵り会い」でもある。僕はこのホームステイで様々な出会を通した。まずは団員皆に会い団員一人一人と話したりした。次に、アムステルダムの人と出合い話したりした。そしてデルフザイルではホストファミリーに出会い交流を深めたりした涙を流したりした日々があった。そこで一番さびしかったのは別れがとてつなくなっていた。

でもこの出合いは、僕にとって貴重な宝となったと僕は思う。こんなにもいい経験ができることはそうない。僕は今回の国際交流のおかげで英語が好きになりました。英語を人前で言う機会があまりないが国をはなれて言ったりできて僕はこのたくさんの出合い等に感謝しています。このような良い経験をできた事に感謝しています。

平成20年度
Delfzijl
友好親善
訪問団

ユトレヒトにて。ユトレヒトにはゴシック建築などがあり昔のままの建物がたくさん立ち並んでいてとてもきれいな街でした。

平成20年度
Delfzijl
友好親善
訪問団

デルフザイル市友好親善訪問団に参加して

山口県立光高等学校 2年

片山 早紀子

Sakiko Katayama

日

本に帰って来た時、現実に戻された感じがした。本営にあの一週間は夢のような一週間だったから。

オランダに着いた日、早速街を歩いてみた。オランダの建物や景色は全部感動できて、どこを切り取っても絵になりそうなどとも素敵な国だと思った。街を歩くだけですごく嬉しくて、十二時間のフライトも全く苦にならず、時差ボケも、疲れも感じなかった。今回オランダに訪問して、以前より更にオランダが好きになった。

TEIJINの工場に見学に行った時、「将来オランダに住みたい人はいますか?」と質問された。その質問に対して、ほとんどの人が「住みたい。」と手を挙げた。この時、みんな私と同じようにオランダに魅力を感じたんだなと思った。周南市とデルフザイル市は遠く離れているけれど同じ会社があつて、その会社の長い友好関係などのおかげで、こうして私たちがホームステイできた。他にも、いろんな人のおかげでオランダに行けたことをしっかり噛み締めて感謝しないといけないな、と思った。例えば一緒に同行して下さった花野さんはじめ、西嶋さんや通訳さん達は私たちの為にいつも一生懸命協力して下さいたり、いろんな事を教えて下さった。他にもお金をしてくれた両親やいろんな人にお世話になったことを忘れず、感謝したい。



1



3



2

- 1 オランダに行って初めて撮ってもらった写真。ホテルの周りを散策していると川の近くにたくさんのアヒルがいました。他にも広い土地などでは牛や馬、羊などが放牧されているのを見ました。
- 2 ホームステイ先のおじいちゃんが自転車で家にやってきました。日本ではみたことないスタイルの自転車でした。めずらしい・・・



4

また、このホームステイを経験して私はすぐ人の優しさにふれることが出来た。初対面でも現地の人達は積極的に話しかけてくれて、まるで今まで面識があったかのように接してくれた。そういう人たちのおかげで私もすぐ打ち解けることができた。オランダでは子どもからお年寄りまでが皆明るくて日々の生活をエンジョイしているな、と感じた。現地の人たちはいつも笑顔ですごく元気をくれた。

しかし、時々言葉の壁がコミュニケーションを難しくした。当たり前だけど現地での生活はほぼオランダ語。そこで、私はあいさつと自己紹介はオランダ語で言えるように本を見て勉強した。伝わった時はすごく嬉しかったし、やっぱり、オランダ語を使うとすごく喜ばれて、自分自身、少しでも意思疎通が出来た、という達成感があった。でも、時々全く理解できなくてすごく悔しい思いをした。出発する前、壮行会で目標としていた「たくさんの人とコミュニケーションをとる」ということが達成できて

ないな、と感じてとても悔しかった。会話が合っていないことが一番悲しい。だからこれから私は英語はもちろん、オランダ語も今から身につけて、いつかまたオランダに行ったり、もしくは住んだりできたときに不便にならないよう勉強しようと決心した。

私は今回オランダにホームステイする事が出来て本当に良かったと思う。失敗することの大切さや周りの人へ感謝の気持ちを忘れないことなど、当たり前のことだけどいろんなことが勉強になった。初の海外旅行がこんなに楽しい旅行になるとは思っていなかった。私はこれから先、この貴重な思い出を一生忘れない。そしてこれからもデルフザイル市と周南市の友好関係が長く続いてほしいと思った。

- 3 最後の日に行ったチーズ専門のお店。お店の人がわざわざ帽子を持ってきてくれました。それに、私がどのチーズを買おうか迷っていたら、チーズを切って試食させてくれたり、サービスがすごかったです。本場のチーズはとてもおいしくて、チーズ大好きな私にとってはとても幸せな旅でした。♪

- 4 乗ってみました! (・▽・) 3つタイヤが付いていてかなりバランスはいいんだけど、初めて乗ったので全くとくなくこげず・・・。自転車というより椅子がそのままついた三輪車みたいな感じでした。足が短くてペダルにうまく届かず、全然進まない。(´ー`)しかも目つぶってるし。(笑)



- 1 お別れパーティーにてホームステイ先のブラーウウ家と共にホストファミリー
- 2 アムステルダムで偶然に出会ったオリンピック選手



デルフザイル市 友好親善訪問団に 参加して

山口県立鹿野高等学校 3年

栢原 瞳

Hitomi Kayahara

七

月三十日、この日からオランダへの旅が始まりました。海外へ行くという実感はあまり湧かず緊張気味でしたが、みんなと和んでいくうちに緊張もほぐれていきました。

三一日、関西空港からアムステルダムへの飛行機で十三時間もかかり疲れましたが、アムステルダムの美しい景色で疲れも吹っ飛びました。

八月一日、ホテルでの朝食は美味しかったです。味のほとんどが濃かった気がします。水は日本の方が甘いと感じました。アムステルダムでは色々な建築物が見られ、マンションは日本と違い各戸にテントが付いていたり、カラフルな外観のものが多かったです。自転車も多く専用道路もありました。そして夕方、デルフザイルに到着しました。ホストファミリーと初めて対面し、歓迎会での代表挨拶もあったのでとても緊張しました。ホストファミリーは私達が緊張しているのを察知し、色々なところに連れて行ってくれたり話で和ませてくれました。

二日、デルフザイルのショッピングセンターでお土産を買いました。夕方のサバイバルは大変でしたが夜のパーティーは盛り上がり大満足でした。

三日、ホストファミリーが昔のデルフザイルの話をしてくれ、周辺のドライブに連れて行ってもらいました。その後、みんなと船に乗りドイツの方まで行き、生のニンジンに玉葱をつけて食べました。生臭くて味が濃かったです。

- 3 生のニシンを試食しているところ
- 4 アムステルダムのホテルでの朝食
- 5 アムステルダムのマンション



四日、朝からTEIJIJINの工場見学をし、市役所と消防署に行きました。お別れパーティでは歌やゲームも楽しみ、最後のダンスでは本当に盛り上がりました。明日帰るのかと思うと、とても悲しくて時間の早さを感じました。この日は夜遅くまでホストブラザーの部屋で色々な話をしたので英語力が上達したと思います。

五日、朝ホストファミリーとの別れがとても早かった気がします。その後ユトレヒトのホテルに向かいました。

六日、朝からみんなでユトレヒトの街を歩きました。とても綺麗な街並みで、人も多かったです。その後港へ行き、偶然にもオリンピック選手に出会いました。握手と写真も一緒に撮ってもらったので本当に嬉しかったです。

七日、日本に到着しました。行きより帰りの時差ぼけが酷く、一日がとても短く感じました。特に湿気の多さが不快に感じました。家に帰ってからは時差ぼけの影響でしばらく毎日眠い日が続きました。

今回のホームステイは、本当に貴重な体験でした。今後もこの経験を生かして国際交流の機会があれば進んで参加したいと思っています。そして、オランダは私にとって是非また訪れたい国となりました。



- 1 デルフザイルの小さな店街でお祭りがあったから行きました。ここではオランダの伝統的な踊りを見てぶらぶらしました。街中みんなここに来ていてオランダの人はノリがいいと思った。
- 2 市役所で市長さんに会った。オランダに行けたのも市長さん達のおかげ。だからここでの写真は意外にすごく貴重です。

1



2

デルフザイル市 友好親善訪問団に 参加して

山口県桜ヶ丘高等学校 3年



松本 昌奈

Akina Matsumoto

ま

最初は、ヨーロッパというものには私にとって本当に興味深くて、今回のオランダへの旅ができたことを本当に心から感謝しています。そして私は、言葉の壁をこえ、世界中の人と仲良くしたい、その国の文化や歴史に触れ、本当の自分と出会いたいと思う。

一日目から長い飛行を経てオランダの大地を踏み、まず感動しました。その日は次の日のホームステイと観光にわくわくと期待を胸にぐっすりねむれました。次の日アムステルダムを観光して、歴史を学びました。レンブラントとフェルメールの絵を見て、感極まり涙しました。オランダの英雄たちが歩いた奇跡に生でふれる体験に、改めてすごいなと感じました。ここで初めての出会い、まさきさんとなつみさんに出会いました。すごく優しい方でオランダでの生活や言葉などを教えてくれました。そういう時なんだかオランダに近づけた感じがしました。

そしてホームステイ先のみなさん方との対面会。こんなにたくさんの方の外人にかこまれたのは初めてのことで緊張しっぱなしでした。私の家族は四人でした。その家庭で四日間も過ごすのは不安だったけどそれがふつとぶくらしい優しい方々でした。大勢ですごすことが多かった日々でした。カヌーや、ゲートボールの時は、みんなで協力し合い成し上げたこと、言葉が通じなくても、笑ったり喜んだりすると、向こうも分かるみたいでニコッとしてくれました。そんな時、やっぱり同じ人間だなと思ったし、

もっと仲良くなりたいと思った。パンケーキパーティーの時ある二人の兄弟と出会いました。二人は日本が大好きで話していたら十分で大好きになってました。公用語は英語で、英語が分からなくても身振り手振りで伝えてくれて、あれはすごく嬉しかった。気づいたことがオランダ語で話すことが向こうは嬉しがっていました。だからみんなで覚えて会話していました。次の日は船にのり、ダーンという子どもに会いました。すっごくかわいくてハグとかしていたら、私に絵をかくてくれました。何でかわかんないけどすっごくあったかい気持ちになりました。お別れパーティーの時、歌った「世界に一つだけの花」みんなに伝わるように心をこめて歌った。ゲームもダンスもみんなが一丸となって一つの何かをやりとげたみたいに達成感があった。そしてついにお別れの日、私は、車にのってみんなの元へむかった。おりた瞬間みんなの感じが違うのは一瞬で分かった。私は誰よりも先に泣いた。自分でも不思議なくらい泣いた。それほど深かったんだと思う。胸がいっぱいになった。マザー、レナ、ニコ、ロビー、みんなの顔を見ると離れたくないと思った。そしてみんなと抱き合い別れた。みんなが私たちに手を振ってくれていた光景、一生忘れない。本当にみんないい人達でした。

今回の旅は、ただの旅じゃない。しいて言うなら、「輝かしい奇跡」だ。自分の小ささを知った旅、可能性は最大限にある、また頑張れる、パワーをくれた旅。色んなものを吸収した旅。素顔に触れた旅だった。本当の自分にまさに出会えた、こんなの今までにないまれな経験をした。

そして、たくさんのお会いや別れを体験した。知らなかった。人との出会いや別れでこんなにも自分を大きくするなんて。人の人生を変えてしまうなんて。

旅を終えると、何故か人に優しくしたくなる。あったかい気持ちになる。文化や歴史、自然や大地、人々の優しさ、オランダが大好きになりました。そして、最高の仲間に出会えた旅。オランダ人だったり、旅のメンバーだったり、出会った時間は短けれど貴重な体験をしたもの同士、一緒に笑い、泣き、幸福し、感動しあった仲間、どんなに離れていても、言葉の壁はあっても、一生の仲間になったと思います。これを「絆」って言っんじゃないかな。また絶対行きたいし、住みたいです。改めて参加できたことに感謝です。

オランダに行く前に行った後、「全然表情が違っ」って花さんに言われ、「あつきーはこれからもっと大きくなるよ」と言われ、これらが楽しみです。

本当に本当に多くを学びました。



- 3 ニシンを食べた。まあまあでした。帰国してからテレビで見たけど、市場ではすごい流行ってるらしいです。
- 4 ボーリングに行ってみんなで騒いで楽しかった!! マザーが超ノリノリで動きとかすさまじかった。今思い出しても笑えます。リョーマと花さんと「オランダ語で会話する」の本を見て頑張った気がします!!(笑)
- 5 やっと終わったゴルフから帰ってきたときの写真。このときみんなとの仲が縮まったと思う。みんなよく頑張ったね〜



1

- 1 ホストファミリーのスミス夫妻です。会ってすぐに3人で祭りに行きました。手に持っているのはパンケーキ。砂糖とバターがたっぷり!おいしかったです。
- 2 素晴らしい団員たちとお世話になった通訳の夏見さん、添乗員の西嶋さんです。



2

デルフザイル市 友好親善訪問団に参加して

周南市教育委員会 生涯学習課

花野 勝則

Masanori Hanano



デ

ルフザイル市は、歴史を重んじ、温かみのあるまち。そしてとても親切な人たちが住み、工業の成長と環境を考えた未来を創造するまち。私たちはそんな素敵な場所で精いっぱい交流をしてきました。別れ際の「お互いの涙」や「たくさんの思い出は両市の友好親善が成功したこと」の証であると思っています。

ただ、十九年の交流の歴史はありますが、その都度「関係を育んでいかない限り」「感謝の気持ちを伝えあわない限り」「関係を維持することはできないと感じました。団員たちの自然体で一生懸命な姿は、ホストファミリーとの距離を近くし、交流をより一層深いものにしたと思っています。十九年前に両市が結んだ友好の種は、今では、お互いの理解や協力によって、すばらしい花を咲かせておりますし、今回の団員たちによって更に大きな花になったことを心からうれしく思います。

また、この事業は子供たちの「人生を変える」事業であると感じました。現に団員たちの進路に影響を与えています。団員たちは、地球の反対側で初対面の外国人と生活し、言語や文化、思考や思想が異なる環境下で、自らの目標にチャレンジしてきました。私は、団員たちの目標が達成されるよう環境づくりに努めてきましたが、団員たちの自発的な学習意欲に伴う行動力にただ驚くばかりで、自らの目標を達成するだけでなく、全ての団員が、この度の経験を通じて、日本での自分と比較し、新しい自分の価値観の創造や目標設定ができたのではないかと確信しております。

- 3 副市長と助役との友好親善写真です。ネクタイはヨハネスさんから頂いたもので、デルフザイル市の刺繍が入っています。
- 4 特別にお世話になった音楽協会のヨハネスさんです。地域づくりのヒントを教えてくださいました。
- 5 スピーチの後にツヨシ君のぬいぐるみをプレゼントしました。写真を使って説明しました。



右ページ上の写真は、大変長くしてくれたホストファミリーのスミス夫妻（ヘンクさんとウィリイさん）です。初日からデルフザイル市の歴史や地形などをドライブしながら教えてくださり、風力発電などの環境対策やオランダの低地対策、十七世紀の教会の保護や文化財の取り扱いについて、或いは、スミス夫妻の余暇の過ごし方など様々なことを教えて下さいました。当然女性に対する真摯な行動についてもです。私がスピーチをすればウインクでOKサインをくれたことは二人の愛情を感じました。短い期間でしたがとても安心して過ごせたこと心から感謝しています。ありがとうございます。

私は、団長の立場で団員たちの変化を肌で感じる事ができたことを幸せに思います。教育事業の成果が表れるのに一定の時間を要することから、今回の団員たちがどう成長していくのか、長い間見守ることができるとを望んでいます。また、団員のみなが体験した多くのことが、来るべく未来に向けて、自分自身の成長や自分を語る多くの人たちの成長、そして両市の成長に結びつくことを切に望んでいます。けんちゃん、まい、ようこ、ひつとん、しーちゃん、ミッキー、りょうま、ゆかこ、カズマ、さーちゃん、ひとみん、あつきー、みんなが十年後にどう変身しているのが大変楽しみです。

最後になりますが、全ての経験がこれからの地域づくり、人づくりに役立ちますし、「国際交流」という視点を得たことを「成長の機会」にしたいと考えています。関係するすべての方に感謝します。ありがとうございます。（ Dank ウェル ）

帰国報告会・同窓会の写真



報告会が始まる前の写真です。



深来 健一郎



稗田 麻衣



福谷 洋子



西村 瞳



藤田 沙理



船井 美咲



青木 亮磨



守岡 友加子



国次 一真



片山 早紀子



栢原 瞳



松本 昌奈



花野 勝則



報告会が終わってからの写真です。



さっそく同窓会を開きました。



アクティビティ 修了証書

田舎ゴルフ、いかだづくり、ロープ渡り、アーチェリー体験など（8月2日実施）



FEEL FREE Events - Sailing - Adventure - Sports **SURVIVAL DIPLOMA** **DELFSZIJL 2008**



Jij hebt een geslaagde survival uitgevoerd in:

- Bosgebied Blessum en Uitwierde
- Paviljoen 'De Bloemert' Midlaren.
- Marum (outdoorpark)

Van harte gefeliciteerd!!!

Je hebt deelgenomen aan:

- de survival
- handboogschieten
- vlotbouwen en vlotvaren

.....



Datum:

02-08-2008

Handtekening instructeur:

A. Koster

Heb je een leuk Survivalverhaal of heb je leuke foto's?. Stuur het naar FeelFree en wij plaatsen het op onze website: www.FeelFree.nl. Ons adres is: info@FeelFree.nl





発行 周南市総合政策部企画課

〒745-8655 山口県周南市岐山通1-1
TEL (0834)22-8591
FAX (0834)22-8475
<http://www.city.shunan.lg.jp>